

地域活性化 という「遊び」

京都府福知山市
「みわ・ダッシュ村」から

93 山本晋也

いったいこれはなんだろう
わからなくても大丈夫

好奇心が失われると考えることをやめてしまい
新たなアイデアは生まれてこない
視点を変えてみれば
まだまだ田舎にもお宝が眠っている

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。



京セラ美術館。市が経営していた時より魅力的な展示が多い気がします。

限 限界集落を囲む山も
少しずつ色づき始め

山間の小さなレストランは
予約が殺到。

加えて

稲刈り、狩猟、冬野菜の作付けと
今日が何月何日で何曜日だったか
わからなくなるほど

忙しい日々を送っています。

しかしそんな時こそなぜか

日常とは違う体験をしなければと

いう危機感が沸々と湧き上がり

時間をなんとかやりくりして

京都市の美術館へ
行って来ました。

開催されていたのは

井田昌幸という

現代美術の作家さん。

絵の具が乾いているのかいないのか

かわからないほど

分厚く塗られたとても大きな作品

はものすごい迫力。

いったい何が描かれているのか

はつきりわからないのですが

伝わってくるものはあります。

息 子たちも

「なんだこれは？」

と思いつつも

作品に近づいたり離れてみたり

解らないなりに

その作品から
何かを感じてみようという努力をして
いました。

子供には難しいだろう

素人が見ても解らないだろう

という考えも

わからないではないですが

解らないから見ないというのは

何事においても

新たな道は開けないと思います。

素人であつたり

解らないことを

恥ずかしいと思うことが

そもそも間違っている

解らないものに対して

「いったいこれはなんだろう」

という好奇心があれば

それで大丈夫。

人間を含め

生き物はすべて好奇心があるから

毎日を生きていけるのではないで

しょうか。

仕事で忙しくなり

繰り返すことで仕事の精度が増す

のはよいのですが

その状態に慣れてしまうと

いつのまにか好奇心が失われ

そうすると

考えることをやめてしまい

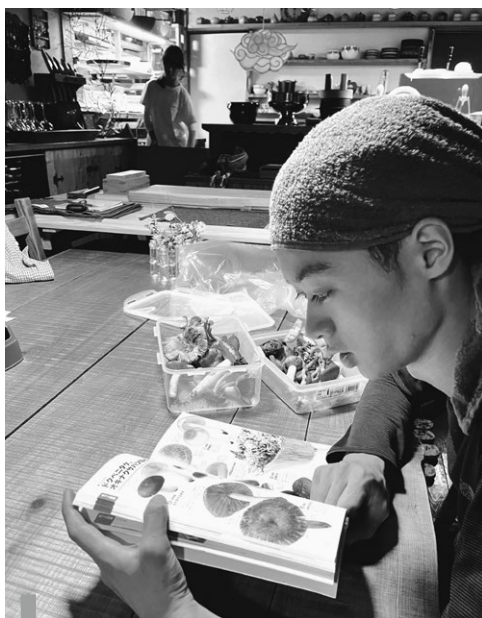
新たなアイデアが生まれる可能性

は極端に低くなってしまいます。

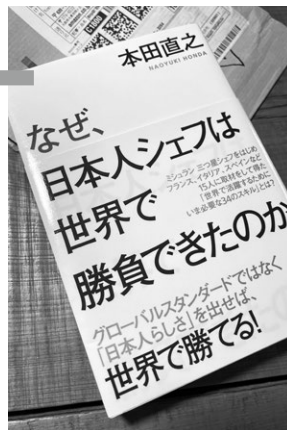


わからなくても大丈夫。とりあえず見てみよう。

こんな本をお書きになっている著者の方がご来店。
息子たちのスタイルを気に入っていただき、
送っていただきました。



今年は食べたことのない木の子も勉強中。
移住して14年ですが、
まだまだ知らないことばかり。楽しいですね。



先 日息子たちのレストランにご来店いただいた東京の有名レストランのオーナーシェフには
コース料理の構成を考える際、アメリカ映画からヒントを得ていると教えていただきました。料理の世界では通常
クライマックスとかメインとなるメニューは最後に一つですが
アメリカ映画にはクライマックス

と思えるシーンが何度もあり
終わったかと思うとまだ続きがあるというように
その方が考えるコース料理は何度もメインのようなメニューがあり
ハラハラドキドキさせられる構成になっているそうです。
面白いですね。
その方の経歴が元DJと聞いて
また納得しました
やはり違う視点から
物事を見るといのは
大切ですね。
視点を変えれば
まだまだ田舎にも
お宝は眠っています。
日々新鮮な気持ちで発掘を
つづけて行きたいと思います。